

## 時の記念日 100 周年 「時」展覧会 2020 概要

6月10日は「時の記念日」です。671年、天智天皇が漏刻(水時計)を使って日本で初めて報時をおこなった故事に由来しています。1920(大正9)年5月から7月にかけて国立科学博物館の前身である東京教育博物館で、当時、時間をあまり気にしていなかった庶民に時間厳守を促すため、時間をテーマにした「時」展覧会が開催され、展覧会が大人気になったことから「時の記念日」が誕生しました。第1回の「時の記念日」では、東京各所で時間を大切にす呼びかけがおこなわれ、正午の時報に合わせて、大砲や工場の汽笛や寺院の鐘が一斉に鳴り、東京は“響きの都”になりました。「時の記念日」は、日本の大衆に「秒」を意識させた初めての大きなイベントとなり、その後の日本人の時間意識にも影響を与えました。

2020年に「時の記念日」100周年を迎えることを契機として、国立科学博物館と明石市立天文科学館では、一世紀ぶりとなる「時」展覧会を開催しました。本展では、大正時代の「時」展覧会と「時の記念日」、そして日本の時計技術の歩みを振り返るとともに、日本標準時や時間に関する最先端研究について紹介します。昔の「時」を学び、現在の「時」を理解し、未来の「時」に想いをはせていただくことを願って開催しました。コロナ禍のため多くの見学者に見ていただくことができませんでしたが、これらは時間に関する汎用性の高い、興味深い展示資料と考えています。

この度、本展覧会で作成したパネルデータを無償で提供いたします。開催時期の設定や、展示するパネルの選択、企画展名称は開催館の事情に合わせて自由に行うことができます。空きスペースを利用した小規模な企画コーナーという形でも利用できます。全国の施設で、自館のコレクションなどを活用され、「時」をテーマとしたオリジナルな展示が展開されることを希望しています。どうぞご活用ください。

### 【「時」展覧会 2020 展示構成(抜粋)】

#### 「時」展覧会と「時の記念日」 ～その時、人々は「秒」を意識した～

1920年の「時」の展覧会や「時の記念日」について紹介します

「時」展覧会／「時の記念日」の由来

#### 日本における時計100年の進歩

日本の時計産業は、この100年間、時間の正確さと携帯性の向上を限りなく求め続け、世界市場を席巻するクォーツ時計を次々に開発するなど、世界をリードしてきました。その歴史を写真や関連資料と合わせ、魅力的な製品の数々で紹介します。

日本時計産業のはじまり／1890～1940年代 国内時計の量産化“世界に追いつけ！”／

1950年代～ 品質の追求“世界を追いこせ！”／1960年代～ クォーツ革命“世界が驚く！”

ほか

#### 「時」の研究最前線

正確な日本の標準時や原子時計、次世代の光格子時計の研究など、時間に関する研究も大きく進んでいます。日本標準時を維持管理し、時空標準研究室を擁する情報通信研究機構(NICT)の

活動を中心に、その最前線の研究が私たちの生活や社会をどのように変えたかを紹介します。

原子時計とは／原子時計の精度を伝える電波時計／1億分の1秒でカーナビを支える衛星測位システム／100億分の1秒以上の精度で地球と宇宙を測る／次世代原子時計 ほか

### 【提供データ】

「時」展覧会2020で製作したパネルデータをPDFで提供します。パネルを選択しての展示も可能です。参考として企画展リーフレットデータを下記からダウンロードいただけます。このリーフレット冊子を展示に活用いただくこともできます。

企画展リーフレットPDFデータ ダウンロード先：

明石市立天文科学館 ホームページ内 しらべる⇒学芸員のページ⇒時の記念日

[https://www.am12.jp/WPDATA/wp-content/uploads/2022/04/leaf\\_toki-2020\\_nopw.pdf](https://www.am12.jp/WPDATA/wp-content/uploads/2022/04/leaf_toki-2020_nopw.pdf)



### 【必要経費】

パネルデータの提供は無償です。パネル等の作成については開催館の負担となります。

### 【備考】

- ・展示開催の際は、明石市立天文科学館に利用申請及び終了後の報告が必要となります。
- ・企画内容の相談にも応じます。
- ・企画展を開催される場合、企画展名称に「時」展覧会 2020 を入れる必要はありません。

### 時の記念日 100周年企画展 「時」展覧会 2020

(主催) 国立科学博物館、明石市立天文科学館、日本時計協会

(協力) 情報通信研究機構、カシオ計算機、シチズン時計、セイコーウオッチ、セイコーエプソン、セイコークロック、セイコーミュージアム、リズム時計、日本時間学会、山口大学時間学研究所

(資料協力) 海上保安庁、国立天文台、郵政博物館

(会場) 国立科学博物館 明石市立天文科学館

巡回展の開催希望や展示に関するご質問等ありましたら、下記までご連絡ください。

明石市立天文科学館 担当：井上、鈴木

TEL:078-919-5000 E-mail:otoiawase-tenmon@city.akashi.lg.jp